

令和元年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和元年2月13日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）	
自ら学ぶ	子どもたちが話し合い、学び合う授業の推進	B	B	児童の回答が昨年度を大きく下回ったことから、ペアやグループでの話し合いが十分でなかったことが伺える。	A	教職員はよく努力してくれている。話し合う機会を継続して設定していきたい。	ペアやグループでの話し合いの意義について、全教職員の共通理解を図り、ねらいや方法を明確にする。	
	学習規律の定着	B		話す・聞く力が向上したと自覚できた児童が減った。話し合いにかかる学習規律の指導の在り方を全教職員で再確認する必要がある。		児童はよい聞き方ができている。話し方も含めて、継続して指導してほしい。	よい話し方・聞き方の教室掲示を利用する。さらに、児童向けのプリントを全学年で活用する。	
	ICTを効果的に活用した授業の展開	A		数値は昨年度を下回ったものの、児童・保護者・教職員ともに目標値を達成することができた。		ICTを発表の場面で活用するなど、児童が使っ場を増やしていく必要がある。	教員研修を生かして、指導方法を工夫する。新しく導入されたPCのアプリを積極的に取り入れる。	
	授業力の向上	A		児童と保護者は昨年度を5%前後下回ったが、児童・保護者・教職員ともに目標値を達成することができた。		授業づくりにICTを活用するのはとてもよい。情報モラルについての指導をしてほしい。	教材研究や外部講師を招聘した研修、授業研究を今後も行い、全教員の更なる授業力向上を図る。	
豊かな心	礼儀やルールの獲得	C	B	児童は達成したものの、保護者・教職員は下回った。あいさつ運動の際は十分にできているが、日常の挨拶ができていないと考えられる。	B	大人の背中を見て児童はまねをしていくので、教職員・地域の大人が挨拶をする姿を児童に見せていく。	挨拶を交わすことの意味や、よい挨拶の具体的なイメージが意識づけられるよう、学級指導を行っていく。	
		B		保護者・教職員は下回ったものの、児童は達成することができた。		・ルールやマナーを意識させるのには、児童間で声かけができるようになることも大切である。	委員会と協力して、静かに廊下を歩くことができるよう呼びかけをする。 時間を守れるように日課表の見直しを図る。	
	本好きな子の育成	B		児童・保護者・教職員とも目標値に達しなかった。ただし、学校での取り組みを保護者に伝えたことで、昨年度を上回った。		市民館や市図書館の本を冊数に入れる。本の内容をみんなに紹介する場を設定するなど工夫をしてほしい。	学年の目標冊数と現時点での貸し出し冊数など読書の状況が保護者に伝わるように、ブックウォークや学年通信を更に活用する。	
	人とかかわる力の育成	A		たてわり活動の取り組みを重ねることで、異学年とのかかわる機会が増え、かかわる力が深まってきた。		たてわり活動は、ともに運動する楽しさや思いやりの心を育てる場としたい。	たてわり活動では、エンカウンターだけでなく、ペア学年での活動も取り入れて、関わりをより深める。	
	いじめに対する意識の高い子の育成	B		児童と保護者は達成したものの教職員は下回った。全体的に落ち着いているが、きめ細かな指導が必要と考える。		いじめをされた側の気持ちを考えることができるよう日頃からの指導を大切にしたい。	道徳だけでなく、教育活動全体でいじめ・思いやりについての内容を取り扱った授業を実践していく。	
じょうぶな身体	基本的な生活習慣の定着	B	B	げんきカードが定着し、保護者の数値が上がった。家庭と学校とで協力・連携ができてきていると考える。	B	学校と家庭の連携や協力を大切にしたい。	げんきカードの取り組みと、それに関連した保健だよりの配付を継続して行き保護者への呼びかけを引き続き行っていく。	
	粘り強く運動に取り組む子の育成	B		児童の数値が大きく下がった。熱中症対策で外遊びが制限される時期もあったために下がったと考える。		まずは体づくりが大切である。運動する機会を増やしてほしい。	小運動場で使える道具の種類と数の充実を図る。	
	安全な学校生活の確保			B		児童と保護者とも数値は上がっている。登下校における安全に対する意識が高まってきていると考える。	安全意識を高めるにも、挨拶が大切である。それが地域とのつながりや、安全な生活につながる。	通学団会や一斉下校で、日頃の登下校のしかたを振り返る場面を設ける。
				C		教員の評価が大きく下がっている。廊下を走るなど、校内での安全への意識が低下していると考えられる。	上級生がよい見本を見せている。児童間で声かけができるようにしたい。	教員間の指導内容の共通理解を図る。 校内で安全に生活ができるよう環境整備をする。
信頼される学校	子ども一人一人に合った対応	B	B	児童、保護者、教職員において目標値を達成している。生活サポート委員会や情報交換会は有効であった。自分から訴えることができない子に対する対応が不十分であったと考える。	B	定期的な情報交換だけでなく、臨時に行うことが大切であり、継続的にやりたい。	年度当初の情報交換を密にする。 生活サポート委員会や定期的な情報交換は次年度も継続する。	
	地域・保護者ともに行う教育活動	B		数値はやや下がったが、児童、保護者、教職員とも目標値は達成している。クラブや図書ボラの方々、出前授業の講師の方々のおかげで児童の学びがより豊かなものになっていると考える。		困った時には声を出してほしい。地域としては、大いに協力したい。	4月（なるべく早い）の段階で、一年間の見通しを立て、教育課程や年間計画に入れる。 人材バンクのフォルダを4月までに整備し、検索しやすい環境を作る。	
	家庭や地域への積極的な情報発信	B		保護者の数値が達成していない。毎月の学年だよりや緊急時のメール配信で、必要なことは発信できたのではないかと考える。		日常の様子の情報提供が更に増えていくようにしたい。	最大の情報発信者は児童であるとの考えから、子どもたちが、楽しかったことやがんばったことを家で話したくなるような学校生活を送れるようにする。	

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】